

第1回大田区産業振興基本戦略検討委員会資料

# 大田区に関する基礎資料集

(大田区基本構想審議会配付資料より抜粋)

平成20年1月28日

大田区産業経済部

# 目 次

## ◆ 大田区に関する基礎資料集

### ◎ 大田区の概要

- 大田区のプロフィール . . . . . 1
- 大田区の用途地域別面積と割合 . . . . . 2

### ◎ 人口に関するデータ

- 大田区の総人口の長期的な推移(1946～2025年)及び世帯数等の状況 . . . . . 3
- 大田区の人口構成の推移 . . . . . 4
- 大田区の夜間人口と昼間人口の比較 . . . . . 5
- 大田区民の移動状況(就業・通学含む) ～2005年国勢調査 . . . . . 6
- 大田区の年齢別人口構成の推移(予測) . . . . . 7

### ◎ 産業に関するデータ

- 大田区の工業の状況 ～2005年工業統計調査(2005年12月31日現在) . . . . . 8
- 大田区の地域別事業所数・従業員数 . . . . . 9
- 大田区工業の23区比較 ～2005年工業統計調査(2005年12月31日現在) . . . . . 10
- 東京のものづくりに関する意識調査 . . . . . 11

### ◎ 大田区臨海部の産業に関するデータ

- 大田区臨海部の地区別業種構成 . . . . . 12
- 大田区臨海部の機械加工業の状況 . . . . . 13



## ■ 大田区のプロフィール

### 区名の由来

- 昭和22年(1947年)3月15日に当時の「大森区」と「蒲田区」が一緒になって誕生 → 平成19年3月15日に区政満60周年
- 大田区の前身である大森・蒲田の両区は、ともに昭和7年10月に、当時の東京市へ隣接する郡町村が編入された際に設置
- 馬込、東調布、池上、入新井、大森の5つの町が大森区に、矢口、蒲田、六郷、羽田の4つの町が蒲田区に



区の紋章

### 区の概要

- 面積: 59.46平方キロメートル(23区内第1位)  
職員数: 4,947人(2007年4月1日現在)
- 大田区の位置: 東京都の東南部にあり、東は東京湾に面し、北は品川・目黒区に、北西は世田谷区に、さらに西と南は多摩川をはさんで川崎市と隣接
- 姉妹都市等の提携  
姉妹都市(海外): アメリカ合衆国セーラム市(1991年11月18日提携)  
友好都市(海外): 中国北京市朝陽区(1998年9月21日提携)  
友好都市(国内): 長野県東御市<sup>\*</sup>(2004年11月13日提携)  
<sup>\*</sup>旧東部町とは1996年に提携、2004年合併  
秋田県美郷町(2005年11月5日提携)



平和の  
シンボルマーク

### 大田区の地勢

- 西北部の丘陵地帯と東南部の低地に2分され、丘陵地帯はいわゆる武蔵野台地の東南端にあたる
- 低地部は、海岸や多摩川の自然隆起と堆積によってできた沖積地と、それに続く埋め立て地からなる
- 海拔は、田園調布付近が最高で42.5メートル、南東に向かって次第に低くなり、低地部の高いところで約5メートル、海岸線や埋め立て地では約1メートル



区の鳥:ウグイス 区の木:クスノキ

### 大田区の歴史・沿革

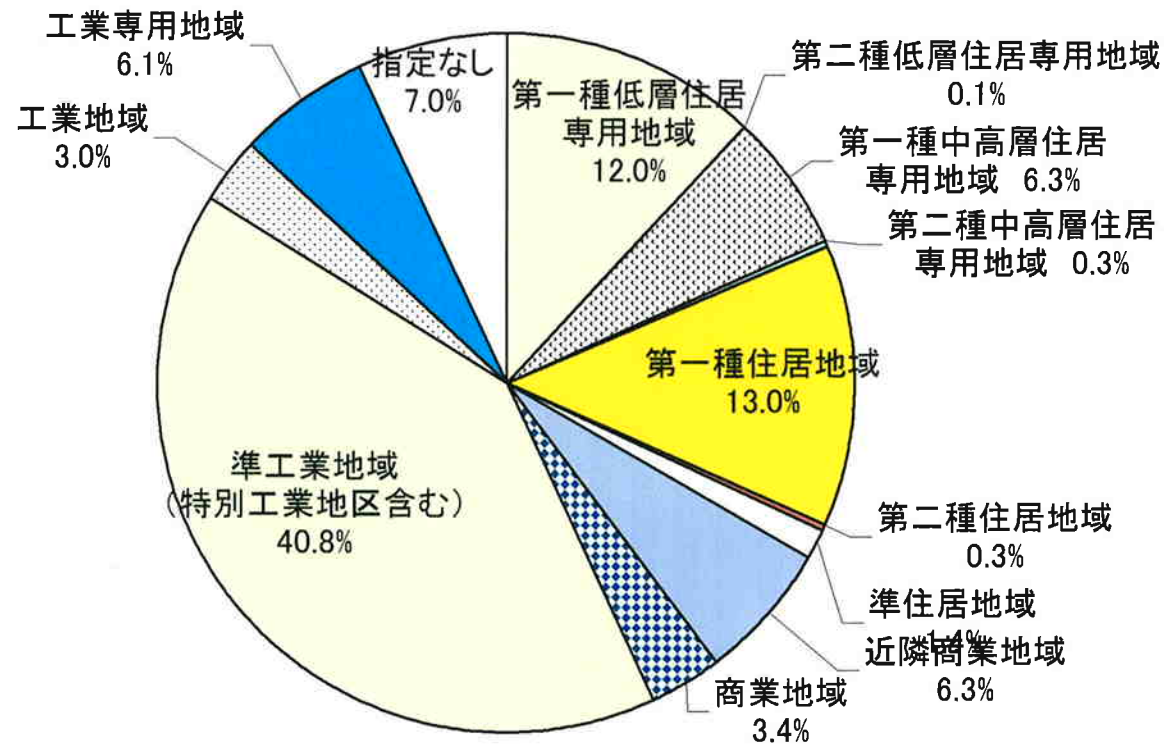
- 海と川に臨み、武蔵野台地の先端に位置していることから、昔から人が住みやすく、交通の要路でもあったため、区内には大森貝塚、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在 → 水止舞や禰宜(ねぎ)の舞などの伝統芸能も数多く残されている
- 江戸期は農漁村で、特に海岸の大森・糎谷・羽田地区では海苔(のり)の養殖(昭和38年まで存続)が盛んに行われ、また、東海道の街道筋にあたっていたため、人馬の往来でにぎわった
- 大正期以降、中小工場が進出し、低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となった
- 台地部は、関東大震災後住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原など比較的緑の多い住宅地
- 臨海部は埋め立て地からなっており、空港をはじめトラックターミナルやコンテナふ頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が立地



区の花:ウメ

## ■ 大田区の使用地域別面積と割合

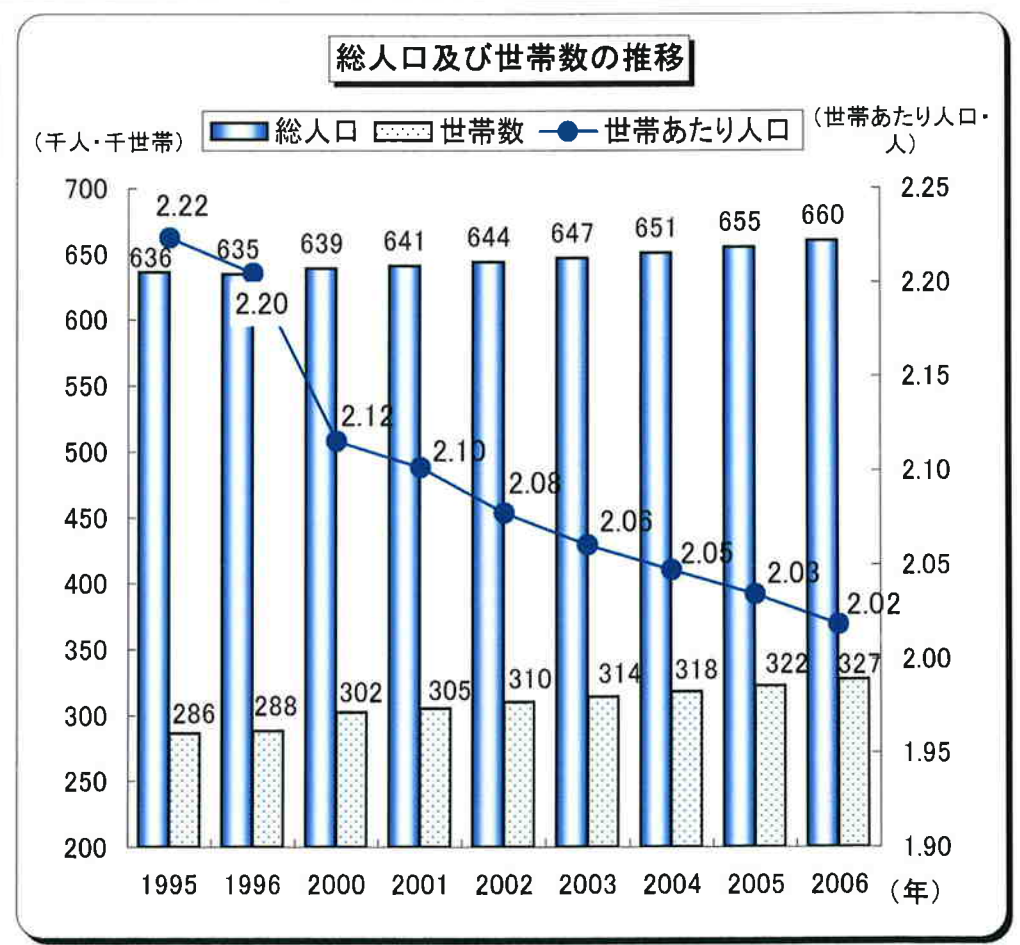
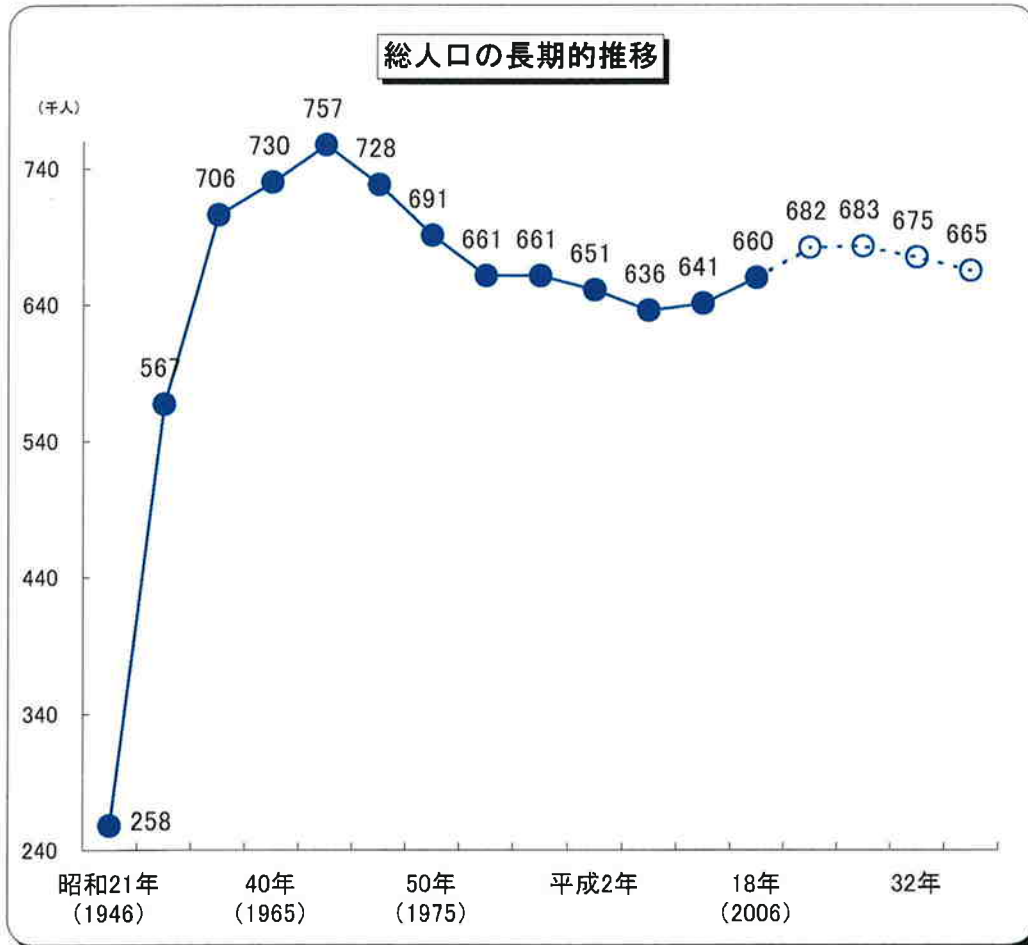
- 大田区には都市計画法で定めるすべての用途地域が存在しており、まさに東京の、日本の縮図的な都市である
- 準工業地域、工業地域、工業専用地域を合わせると約50%となり、用途地域からも大田区が工業のまちであることがわかる



※2006年4月1日現在  
(資料)「大田区の数字」(大田区)より作成

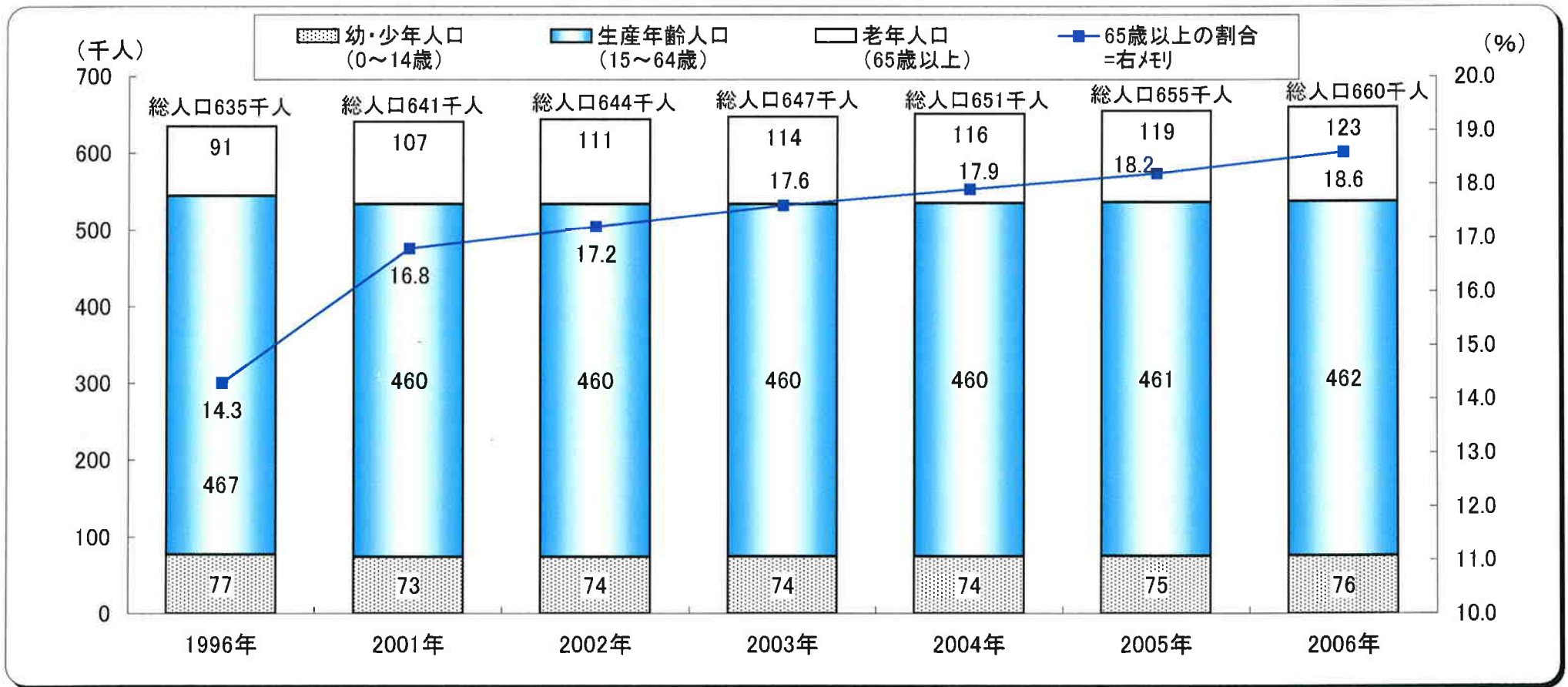
## ■ 大田区の総人口の長期的な推移（1946～2025年）及び世帯数等の状況

- 大田区の人口は、昭和41年の75万6,917人をピークに、現在は66万人程度で推移している。2010年から2025年の推計では、大田区の総人口は67～68万人で推移すると予測されている
- 1995年から2006年までの総人口・世帯数はともに増加しているものの、世帯あたり人口は減り続けており、2006年は2.02人にまで低下している



## ■ 大田区の人口構成の推移

- 幼・少年人口は75千人前後、生産年齢人口は460千人台と大きな変化はない
- 65歳以上の老年人口は、1996年が91千人に対して2006年は123千人と約35%上昇し、全人口に占める割合は14.3%から18.6%に上昇している

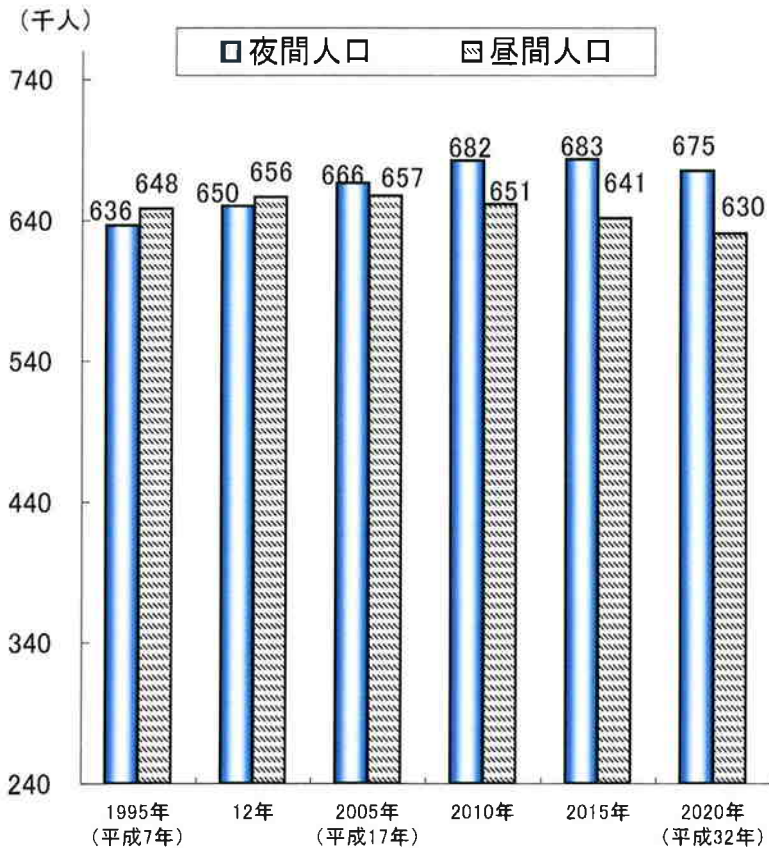




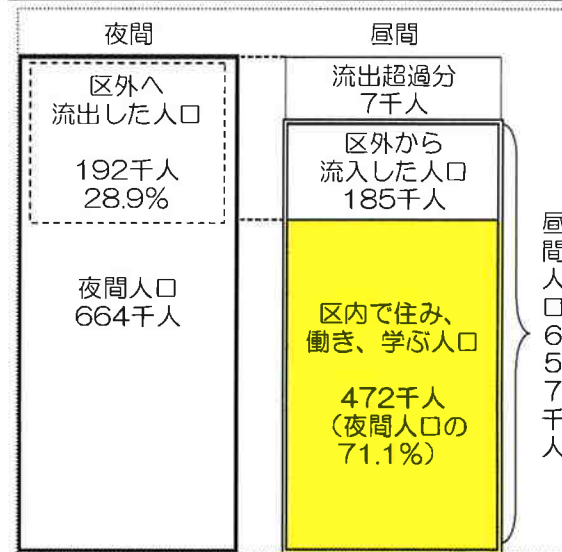
# ■ 大田区の夜間人口と昼間人口の比較

- 2005年までの大田区の昼夜間人口の数は、約65万人とほぼ均衡している。2010年2020年においては、夜間人口は増加傾向であるが、昼間人口は減少傾向を示している
- 昼間人口の構成は、2005年と2010年ともに区内に住み・学び・働く人口が約70%であり、職・学住接近の区といえる

大田区の夜間人口と昼間人口比較



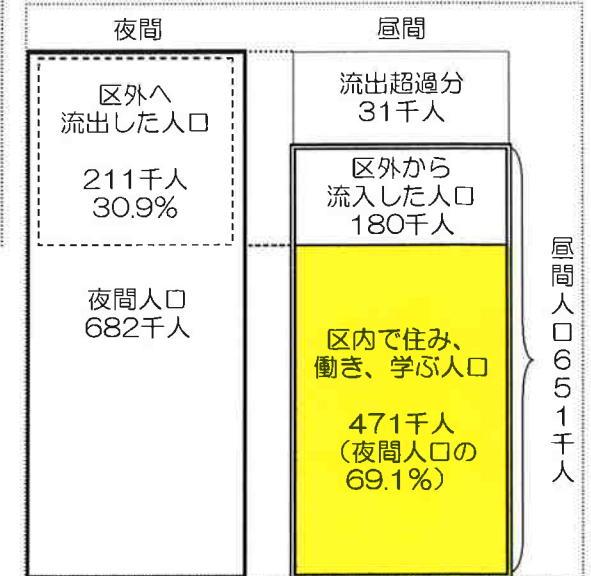
2005年国勢調査の結果



※2005年の夜間人口は、年齢不詳のものを除いているため確定人口(666千人)と一致しない  
 ※労働力状態が「不詳」のものは、昼間時も常住地内に留まる者と仮定

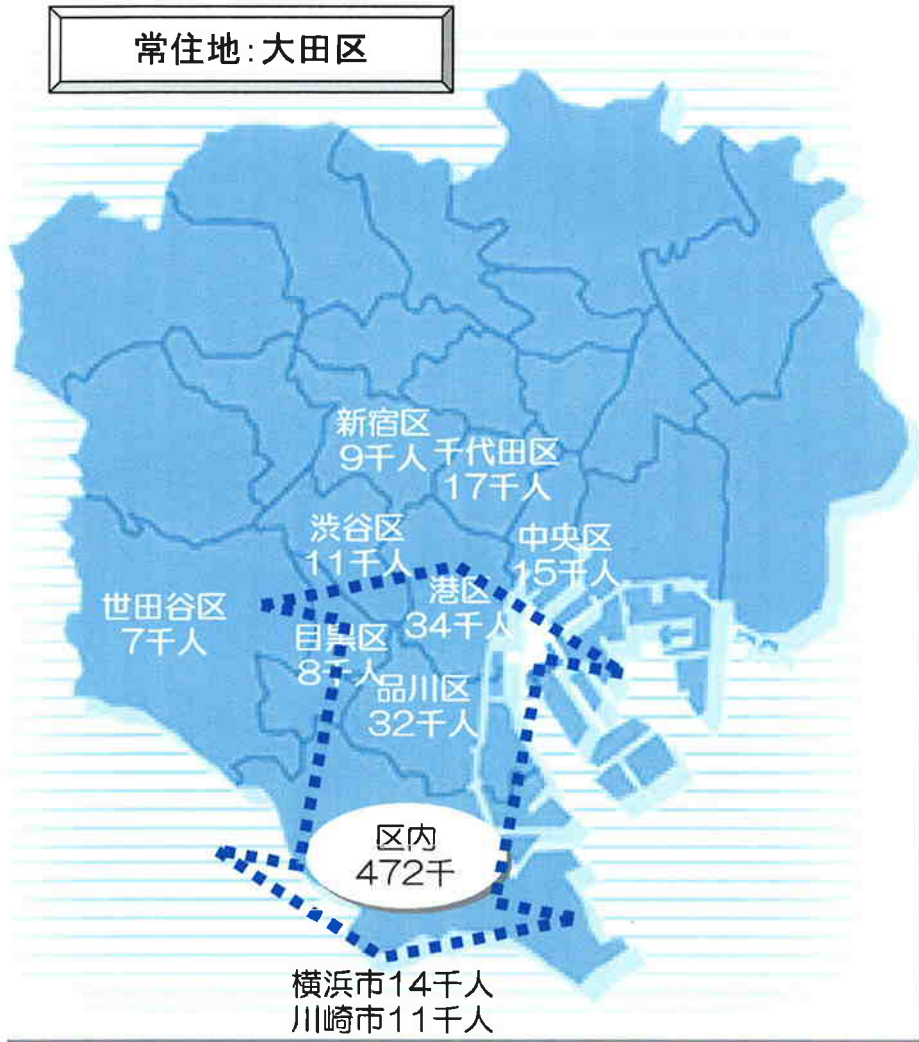
大田区の昼間人口の構成 (2005年と2010年)

2010年の予測





# ■ 大田区民の移動状況（就業・通学含む） ～2005年国勢調査



- 区民の約70%は在勤・在学も含め、区内にとどまっており、大田区は職・住・学接近型の都市である
- 区外への移動先では品川区、港区のほか、横浜市や川崎市等、神奈川県への移動が大きい

**【参考】就業・通学の主な内訳（23区）**

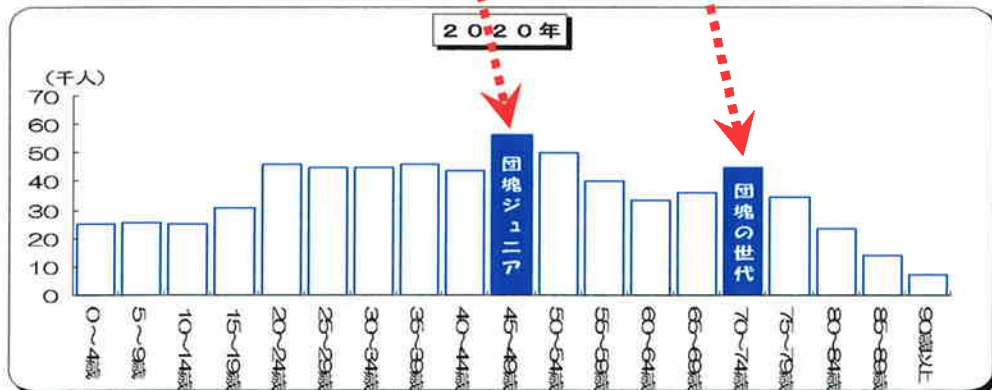
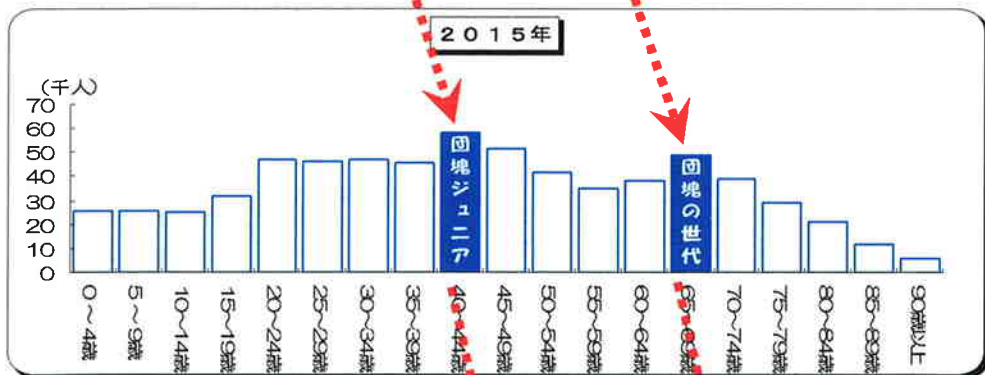
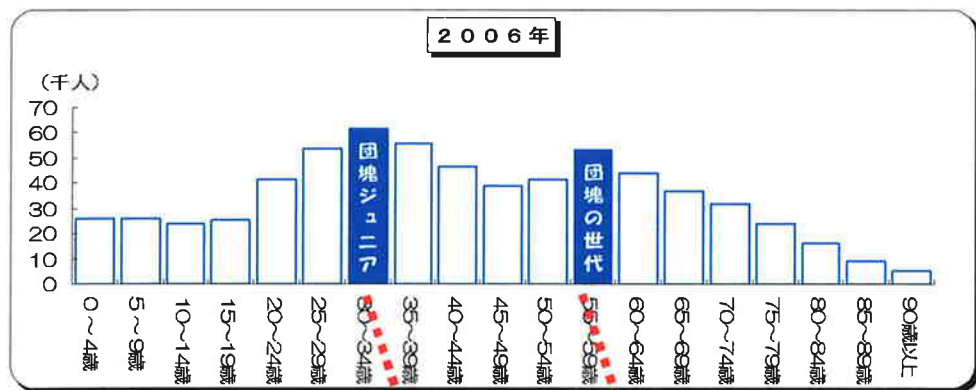
- ・港区  
 就業者：316百千人、  
 通学者：15歳以上 22百人、15歳未満 5百人
- ・品川区  
 就業者：282百千人、  
 通学者：15歳以上 30百人、15歳未満 7百人
- ・世田谷区  
 就業者：47百千人、  
 通学者：15歳以上 19百人、15歳未満 7百人 など

**【参考】横浜・川崎への主な移動内訳**

- ・横浜市  
 鶴見区 28百人、港北区 21百人
- ・川崎市  
 川崎区 56百人、中原区 20百人、幸区 14百人 など

※通学は15歳未満の通学者も含む

# 大田区の年齢別人口構成の推移（予測）



- どのデータも「団塊の世代」と「団塊ジュニア世代」に人口の山ができています
- 2006年と2015年、2020年の動きを比較すると、経年とともに人口の山がスライドしている
- 10代までの子どもの数は、他の年齢層よりも少ないが、人数的には76千人程度で安定している
- 20~30代の若年層も比較的安定した人数で推移している

※「団塊の世代」  
1947年(S22年)～1949年(S24年)に生まれた世代と定義

※「団塊ジュニア世代」  
第二次ベビーブームの1971年(S46年)～1974年(S49年)に生まれた世代と定義